

(5) ストック

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。
 なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
モザイク病 (TuMV, CMV) (アブラムシ類)	①被害苗や株は直ちに取り除き、適切に処分する。 ②育苗期には防虫ネットなどにより、アブラムシ類の飛来を防ぐ。 【参考事項】 アカザ科、アブラナ科、キク科、マメ科植物にも発生し、アブラムシ類により伝染する。
菌核病 (<i>Sclerotinia</i>)	①過繁茂にならないようにするとともに、通風、換気、排水を良くし、過湿を避ける。 ②発病株は早めに抜き取り、適切に処分する。 【参考事項】 被害株にできた菌核が落ちて伝染源になる。菌核は、土壌中で2～3年生存する。キャベツ、ナス、レタスなど、各種作物を侵す。発病の適温は15～20℃である。
炭疽病 (<i>Colletotrichum</i>)	①発病ほ場の残さはほ場から持ち出し、適切に処分する。 ②頭上からの灌水を避ける。 【参考事項】 被害茎葉上に形成された胞子が雨滴や灌水の飛沫で伝染する。
コナガ	①育苗期から目合い1mm以下の防虫ネットで被覆する。 ②周辺のアブラナ科野菜での発生に注意する。 ③ほ場周辺の除草を行う。 【参考事項】 特に秋の幼虫の被害に注意する。